

新美南吉生誕100年

今年7月に郷土の作家新美南吉の生誕100年を迎えます。

新美南吉は愛知県知多郡半田町（現在の半田市）に大正2年7月30日に生まれました。幼くして母を亡くし、養子に出され、寂しい子ども時代をすごしましたが、神童とよばれるほど成績がよく、小学生の頃からその文才を発揮しました。しかし虚弱体質のため中学卒業の頃から30までは生きられないだろうと思っていたそうです。残念ながらその予感は的中し、昭和18年3月に29歳という若さで世を去ります。しかしふるさとを舞台にした新美南吉の作品は、現在も国民的童話として親しまれています。

南吉作品

★童話（123）

「飴だま」「手袋を買いに」「でんでんむしのかなしみ」「久助君の話」「嘘」「おじいさんのランプ」「牛をつないだ樅の木」「うた時計」「花のき村と盗人たち」「百姓の足、坊さんの足」「狐」ほか

★小説（57）

「塀」「雀」「鴛鴦」「帰郷」「花を埋める」「家」「銭」ほか

★童謡（332）

「からす」「窓」「枇杷の花の祭」「島」「仔牛」「光」ほか

★詩（223）

「貝殻」「墓碑銘」「一年詩集の序」「牛」「金魚」「鯉」ほか

★その他

俳句（452）・短歌（331）・戯曲（14）・随筆（17）

南吉ゆかりの人々

★宮沢賢治

南吉は賢治の生前、直接会うことはありませんでしたが、生涯賢治を尊敬していました。

★巽聖歌

南吉の文学の才を引き出し育て、南吉没後も作品を世に広めた恩人です。

★棟方志功

巽聖歌の依頼で『おぢいさんのランプ』（有光社）の装丁・挿絵を担当しました。

★石井桃子

『子どもと文学』（石井桃子他 中央公論社）で、新美南吉のことを宮沢賢治につぐ日本の児童文学者と紹介しています。

★美智子皇后

『橋をかける』（美智子皇后著 すえもりブックス）で、「でんでん虫のかなしみ」にふれられ、図書館にも問合せが殺到しました。

おすすめスポット

ちょっと足を伸ばして出かけませんか。

★新美南吉記念館

愛知県半田市岩滑西町1-10-1

★矢勝川

記念館そばを流れる川。9月下旬20万本の彼岸花で知られます。

参考文献

『生誕百年新美南吉』

新美南吉記念館 編集・発行

「南吉のふるさと半田」（リーフレット）

新美南吉顕彰会

南陽図書館 発行

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。